



シトリックスが実施した未来の労働環境に関する調査 「Work 2035」

柔軟な働き方で生まれる新しいテクノロジーは労働力の戦略見直しの契機に AI活用で従業員はよりエンゲージメントを高め、生産性と革新性は2倍に

米国フロリダ州フォートローダーデール - 2020年10月8日 # Citrix Systems, Inc. (NASDAQ:CTXS) は、未来の仕事がどのように変化するか、従業員が最高のパフォーマンスを発揮できる職場づくりにおけるテクノロジーの役割を理解するため、世界の働き方と労働計画を1年間にわたって実施した調査「Work 2035」を発表しました。

この調査の結果、柔軟性のあるモデルと、仕事の複雑さやノイズを取り除くインテリジェントなソリューションによって、従業員はこれまでにないほど生産性の高い仕事に従事し、イノベーションと成長が促進されることが明らかになりました。

AIが労働者の生産性を向上 調査対象者の4分の3以上（77%）が、15年後には人工知能（AI）が意思決定プロセスを大幅にスピードアップし、労働者の生産性を向上させると考えています。

新しい仕事の誕生 テクノロジー主導の職場や、人間と機械の関係の変化をサポートする新しい役割が生まれるでしょう。新たに生まれる職種として回答者が予測した結果は以下の通りです。

- ロボット/AIトレーナー（リーダーの82%、従業員の44%）
- バーチャルリアリティマネージャー（リーダーの79%、社員の36%）
- 上級データサイエンティスト（リーダー76%、社員35%）
- 個人情報保護・信頼管理者（リーダーの68%、従業員30%）
- デザイン思考者（リーダーの56%、従業員の27%）

仕事はより柔軟に 人々がどこにいてもコラボレーションしたり、仕事をするために必要なツールや情報にシームレスにアクセスできるテクノロジーによって、未来の仕事に必要な柔軟性の高いモデルが促進されます。

- 専門家（ビジネスリーダーと従業員を合わせた）の67%が、デジタル技術を使ってグループや個人間の交流を促進することで価値を生み出す「プラットフォーム」モデルが将来的に仕事を支配すると考えています。
- 回答した従業員の内60%が、2035年までには、正社員という雇用形態が珍しくなると考えています。
- 80%のリーダーは、テクノロジー・プラットフォームが将来の組織を強化し、ビジネスや顧客ニーズの変化に対応するのに必要な、高度に専門化された人材へオンデマンドで即時にアクセスが可能になると考えています。
- リーダーの39%は、2035年には、価値の高い専門職ワーカーの大半がオンデマンドやフリーランスになると考えています。

リーダーシップの是非が問われる 調査対象者の半数以上（57%）が、AIがほとんどのビジネス上の意思決定を行い、上級管理職の必要性がなくなる可能性があると考えています。

- 75%は、ほとんどの組織が、ビジネスのすべての分野を監督するAI統括部門を持つことになると考えています。
- 69%は、CEOが人工知能の最高責任者（CAI - Chief of Artificial Intelligence）と人間と機械のパートナーシップで仕事をすると考えています。

生産性が大きく向上 人間と密接に統合されたテクノロジーは、従業員が最高のパフォーマンスを発揮できるようなソリューションによってサポートされることで、生産性を段階的に変化させていくでしょう。AIを活用したデジタル・アシスタント「AI- Angels」は、個人や職場のデータを活用して、従業員が自分の仕事や時間に優先順位をつけ、心身の健康を確保できるように支援します。例えば、参加者の血糖値から時間帯別の感情まで、さまざまな要素に基づいて、最も効果的な時間帯に会議が行われるようにスケジュールを組むことができます。また、会議が行われている間も、集中力のレベルや態度を監視し、必要に応じて調整を行い、最適な結果が得られるようにします。調査対象となった専門家の半数以上（51%）が、テクノロジーによって2035年までに従業員の生産性が少なくとも2倍になると考えています。彼らが一般的になると考えているソリューションの中には、以下のようなものがあります。

習慣や嗜好に基づいてタスクを予測して実行するAI

- AIナッジ（行動科学の知見に基づく情報発信により行動を促す）
- AIパーソナルアシスタント
- AIを活用したデジタルウェルネスで社員の心と体の健康を確保
- システムと対話するウェアラブル技術
- 拡張現実メガネ
- デバイスを制御するための神経リンク技術
- パフォーマンスに関連したタスクを強化するための外骨格

従業員のエンゲージメントが向上 テクノロジーとAIが時間のかかる平凡なタスクを引き継ぐことで、仕事はより戦略的になり、従業員のエンゲージメントが向上するでしょう。

- 83%の専門家は、2035年までにテクノロジーによって価値の低いタスクが自動化され、従業員は自分がやりたい、報酬をもらっている有意義な仕事に集中できるようになると考えています。
- 79%は、テクノロジーが人間の労働者のスキルアップに重要な役割を果たし、個人の成長とキャリアの成長のための新たな機会を創出すると答えています。

イノベーションと成長が急増する 組織は人的資本よりもテクノロジーとAIに多くの投資を行うようになる。これにより、前例のないレベルのイノベーションと新たな収益源への扉が開かれ、特に中小企業の間で持続的な成長を促進することになります。

- ビジネスリーダーの90%は、2035年にはAI技術への投資が組織の成長の最大の原動力になると考えています。
- 72%の専門家は、2030年までにAIが人間の労働者よりも多くの収益を組織にもたらすと考えています。

- 63%の専門家は、テクノロジーが競争の場を平準化し、小規模企業に優位性を伝えると考えている。

「COVID-19の大流行により、企業は物事の進め方を再考することを余儀なくされており、今後15年の間に、これまで以上に多くの課題や混乱に直面することになるでしょう。「Work 2035」が明らかにしているように、この混沌の中にはチャンスがあります。単に元の状態に戻るのではなく、新しい労働力とワークモデルを採用して、ビジネスを前進させるのです。」と、Citrixのビジネス戦略担当エグゼクティブバイスプレジデント、ティム・ミナハンは述べています。

新型コロナウイルスの感染拡大により、未来の仕事のあり方について予測することは難しい状態にあります。シトリックスは、このパンデミックを乗り越えた後、より強い企業として回復するためには、今から未来の働き方についての戦略が必要であると考えています。

仕事の未来、従業員とビジネスが成長できる環境づくりについてのさらなる詳細については、調査 [「Work 2035」](#) をご覧ください。

「Work 2035」について

コンサルティング会社のOxford Analytica とMan Bites DogがCitrixの支援を受け、学界、シンクタンク、多国籍企業の取締役会、仕事の未来に関する有力な権威者からなるソートリーダーの諮問委員会と協議して実施した最初の調査では、2035年の仕事の未来についての代替的なビジョン、および人とテクノロジーの間の変化する関係を調査しました。

また、ビジネスリーダーや従業員を対象に独自のオピニオンリサーチを実施し、ビジョンを明らかにしました。調査会社のColeman Parkesは、2019年と2020年に、アメリカとヨーロッパ（イギリス、ドイツ、フランス、オランダ）の大企業や中堅企業（金融サービス、医療・ライフサイエンス、通信・メディア・テクノロジー、専門サービス、製造業、小売業。）で働く1,500人以上のビジネスリーダーや従業員にインタビューを行いました。さらに2020年5月には、300人のビジネスリーダーを対象としたオピニオンリサーチの追加調査が実施され、世界的なパンデミックにどのように対処しているのか、またパンデミックが仕事の将来に対する見解にどのような影響を与えたのかを調査しました。

###

<Citrix製品に関するお問合せ> <https://www.citrix.com/ja-jp/contact/form/inquiry/>

【ソーシャルアカウント】

- Twitter : https://twitter.com/citrix_jp
- Facebook : <https://www.facebook.com/CitrixJapan/>